



奈良次郎 教授 近影

## 奈良次郎教授 略歴

昭和五年 一月二八日 北海道小樽市で父稻次郎・母達間の二男・二女の次男(末子)として生る。  
 昭和一七年 四月 北海道庁立小樽中学入学  
 昭和二一年 七月 同五年一学期中退  
 昭和二二年 七月 官立弘前高校文科甲類入学  
 昭和二四年 三月 同校卒業  
 昭和二四年 四月 東京大学法学部入学  
 昭和二五年 一月 司法試験第二次試験合格  
 昭和二七年 三月 同大学法学部卒業  
 昭和二七年 四月 司法修習生採用  
 昭和二九年 四月 判事補・三九・四判事任命。その間岐阜地裁・同大垣支部、最高裁事務総局民事局付、兼総務局付、福岡地裁小倉支部、最高裁調査官、東京高裁判事職務代行、大阪地裁、東京高裁、千葉地裁、札幌高裁、仙台高裁を経て  
 昭和六三年 二月 岡山家裁所長  
 平成 二年 四月 依願退官  
 平成 二年 四月 筑波大学(社会科学系)教授  
 平成 五年 一月 依願退職  
 平成 五年 一月 日本大学法学部教授

奈良次郎教授 略歴 著作目録

## 社会における活動

昭和五二年五月〜五四年四月 法制審議会民事訴訟法部会兼強制執行制度部会委員(法務省)  
 平成二年八月〜六年七月 宗教法入審議会委員(文化庁)  
 平成二年一〇月〜現在 千葉地裁等調停委員

## 奈良次郎教授 著作目録

- 1 「仮差押の被保全権利の変更と請求の基礎」兼子一編・実例法学全集民事訴訟下巻・昭和三五年
- 2 岩松三郎一編「法律実務講座」民事訴訟編第六卷(第一審手続⑤)、「確定判決の効力」担当・昭和三八年
- 3 「仮処分命令と民訴一八六条」吉川大二郎選歴記念「保全処分の体系」上巻・昭和四〇年
- 4 「弁論主義違反の違法とその効果についての一考察」松田二郎判事退官記念論集「会社と訴訟」下巻・昭和四三年
- 5 「最高裁破棄判決概説」(1)民事編昭三〇〜四一・一粒社・昭和四三年
- 6 「独立当事者参加について―裁判例を中心として」(1)〜(8)「判例評論」二〇号・一二二号・一二四号〜一二八号・一三〇号)昭和四四年
- 7 「釈明権と釈明義務」実務民事訴訟講座I巻・昭和四四

- 年
- 8 「消極的確認の訴えについて」民訴雜誌二二一號・昭和五〇年
- 9 「偽造文書による登記」香川保一編不動産登記の諸問題上巻・昭和五一年
- 10 「相続財産に関する訴訟と遺言執行者―主として被告適格と関連して」司法研修所報五九號・昭和五二年
- 11 「法定代理人についての若干の考察」民訴雜誌二四四號・昭和五三年
- 12 「商業帳簿と文書提出命令」山木戸克巳選歴記念論集「実体法と民事手続法との交錯」下巻・昭和五三年
- 13 「変更登記・更正登記」不動産法大系IV登記・改訂版・昭和五三年
- 14 「統獨立当事者参加訴訟―裁判例を中心として」(1)～(16)判例評論二四二號～二四六號・二四八號～二五〇號・二五一號～二五八號・昭和五四年～五五年
- 15 「控訴審における審理の実際と問題点」小山昇・小室直人選歴記念論集「裁判と上訴」中巻・昭和五五年
- 16 「判決効をめぐる最近の理論と実務」新実務民事訴訟講座2巻・昭和五六年
- 17 「保全訴訟手続と獨立当事者参加」吉川大二郎追悼論集「手続法の理論と実践」下巻・昭和五六年
- 18 「訴訟資料収集に関する裁判所の権限と責任」講座民事訴訟4巻・昭和六〇年
- 19 「檢察官を当事者とする人事訴訟と手続保障」(上・中・下)ジュリスト八五六號～八五八號・昭和六一年
- 20 「敷金・権利金・保証金・建設協力金」現代借地借家法講座2巻借家法・昭和六一年
- 21 「共有物分割の訴えについて」(1)～(5)判夕五七九號～五八八號・昭和六一年(のち民事判例実務研究5巻所収・平成元年)
- 22 「再度の考案について」(上・下)判時一三四四號～一三四五號・平成二年
- 23 「移送決定の構造と若干の問題について」(1)～(6)判時一三六五號～一三七二號・平成三年
- 24 「抗告審の多様性」(上・下)判夕七五四號～七五五號・平成三年
- 25 「共有物分割訴訟と遺産分割手続との異質性」三ヶ月章古稀記念論集「民事手続法学の革新」中巻・平成三年
- 26 「家事審判・人事訴訟の課題と将来」ジュリスト九七一號・平成三年
- 27 上田徹一郎井上治典編「注釈民事訴訟法」(2)訴訟費用前注九一條・平成四年
- 28 麻上正信谷口安平編「注解和議法」(改訂版)二〇條・

平成四年

29 「処分禁止の仮処分と保全仮登記についての若干の考察」

香川保一最高裁判事退官記念論集「民法と登記」上巻・平成五年

30 「共有物分割の訴えについての若干の考察」判夕八一五号・平成五年

31 「将来の損害賠償の請求訴訟」企業法学二号・平成五年

32 「判決文の歴史」日本語学一三巻一号・明治書院・平成五年

33 「当事者と裁判所の関係についての一考察」木川統一郎古稀祝賀「民事裁判の充実と促進」上巻・平成六年

34 「専属的合意管轄は終焉か？」(上・中・下)判例評論四二七号〜四二九号・平成六年

35 「共有物分割訴訟の若干の問題点について」判夕八五四号・平成六年

以上の外、菊井維大、村松俊夫・全訂版「民事訴訟法」I〜IIIについて昭和五三年から同六一年にかけて、同・全訂「民事訴訟法」I補訂版について平成五年に、何れも相当部分を、斉藤秀夫外編「注解民事訴訟法(第二版)」(平成三年)(1)について三五条〜四四条を、(5)について二〇八条〜二二二条を担当・記述したほか、前記以外に、論文として約四〇編、判例解説・評釈・研究等として約一〇〇編がある。